

國學院大學學術情報リポジトリ

両大戦間期日本の総力戦体制構築と陸軍経理組織

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-23 キーワード (Ja): 陸軍主計, 陸軍経理, 食糧問題, 総力戦体制, 糧友会 キーワード (En): 作成者: 大藺, 佳純 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001677

論 文 要 旨

学籍番号	223310	氏 名	大 菌 佳 純
論 文 題 目： 両大戦間期日本の総力戦体制構築と陸軍経理組織			
<p>本論は、大戦間期における陸軍経理組織の人口食糧問題への対応を通して、陸軍経理組織による総力戦体制準備構想はどのようなものであったのかを明らかにするものである。</p> <p>第一章では、陸軍経理組織の職域や特質を整理したうえで、両大戦間期の陸軍経理組織が、①総力戦についての調査・研究・総力戦体制の構築②業務上関わる相手との意思疎通と相互理解の徹底③平時において如何にして陸軍軍人として経理業務を行うか、という三つの課題を抱えていたことを示した。三つ目の課題は、陸軍主計が①陸軍軍人②陸軍の運営者③専門職という三つの特質をもつ存在であったために、平時において陸軍軍人たるべく積極的に国防観に基づいた活動を行う必要があったことで生まれた課題であり、戦間期の陸軍主計特有のものである。</p> <p>第二章では、戦闘職務と陸軍主計の食糧認識や食糧に関する総力戦体制構想について比較検討した。従来、陸軍内外問わず食糧関係従事者以外は食糧問題や食糧関係従事者を軽視していたが、第一次世界大戦を契機として、戦闘職務の陸軍軍人らも国防資源の中に食糧を内包し、食糧の配給・統制や供給に対し関心を抱くようになった。ただし戦闘職務にとっての食糧は人々の動力源であり、国民精神安定のための要素でしかなく、食糧の消費活動に対する評価が上がったわけではない。戦時における配給・統制を大前提とする陸軍主計は、平時における総力戦準備のために食糧消費に関する調査研究と一般国民及び陸軍に対する知識普及活動を指向していた。</p> <p>第三章では陸軍経理組織が食糧面の総力戦体制構築に向けてどのような活動を行ったのかについて検討した。陸軍が平戦時問わず国内最大の食糧消費団体であるという点から、陸軍経理組織は食糧消費に関する調査研究とその研究成果を含む知識普及を行った。知識普及は陸軍内外及び中央・地方を問わず、雑誌への投稿や調理講習会、食糧展覧会の開催などの形で実施した。これらの活動は総力戦体制の準備としてだけではなく、当時大きな社会問題であった人口食糧問題の解決に向けた活動としても実行された。</p> <p>以上のように陸軍経理組織は、①戦時に備えたより食糧消費の効率化の模索と②戦時における軍隊内外の食糧消費で最大効果を発揮するための意識改革及び知識普及という方法で、食糧統制等の施策を円滑に実行するための基盤造成を目指し緩やかに総力戦体制を整えていこうと考えていた。</p>			
キーワード (5語) 陸軍主計 陸軍経理 食糧問題 総力戦体制 糧友会			